※内容一部抜粋

ヒロイン「なにが？」

【⑨：ヒロインの方を向きながら】

ロージー　「だから、俺の公演だよ。……観てたんだろ？」

ヒロイン「仕事中だったから、観る暇なんてない」

ロージー　「へぇ～……そうか……」

ロージー　「でも俺は見たぞ。
俺が踊ってる時、お前がしっかりこっちを観てたこと」

ヒロイン、手が止まる。

ヒロイン「……距離あるのにどうしてわかるの」

ロージー　「わかるよ。俺、目いいから」

ロージー　「客席を観てたら、自然とこのバーカウンターも目に入るんだよ」

ロージー　「あのステージの上からでも、このバーカウンターは余裕で観える」

ロージー　「……随分と、熱烈に観られてた気がしたな」

ヒロイン「……」

ロージー　「（小さく笑い）、お前は本当に俺のダンスが好きだよな（揶揄うように）」

ロージー、バーカウンターに身を乗り出す。

【①】

ロージー　「なんなら、今からお前の為だけに踊ってやろうか……？」

ロージー　「ここには俺とお前しかいないし……」

ロージー　「俺を独り占めできるなんて……中々ないと思うけど……？」

ヒロイン「……」

ロージー　「お前が頷くなら、俺は――」

ヒロイン、カクテルを差し出す。

ロージー　「？　……これは……」

ヒロイン「『ピンクレディ』。飲んだら部屋に戻って」

ヒロイン、その場を去ろうと歩き出す。

ＳＥ：足音

【⑬】

ロージー　「ッ、待てよ！　どこ行くんだっ」

※中略

ヒロイン「え……まぁ……」

ロージー　「なら、ちょっと手伝ってくれ。
メイクはほとんど終わってるんだけど、口紅だけ塗り忘れてさ。
代わりに塗ってくれないか？」

ヒロイン「自分で塗ればいいじゃない」

ロージー　「今爪に色を塗ったばっかりで手が使えないんだよ」

ロージー　「な？」

ヒロイン、ロージーの元へ近づいていく。

【①下（椅子に座っている）】

ロージー　「ありがとう。あぁ、口紅はそこにあるやつ使って」

ヒロイン、口紅を手に取りロージーの傍に座る。

【①（ヒロインと同じくらいの高さ）】

ロージー　「ん、じゃあ頼む」

ヒロイン、ロージーの顔に触れる。

【①少し寄り】

ロージー　「（ヒロインを見つめて小さく笑う）……」

ヒロイン「……目閉じてくれる？」

ロージー　「なんで？　いいだろ別に。目開けてたって」

ヒロイン「見られてると集中できないんだけど……」

ロージー　「いいから。早く塗ってくれよ」

ヒロイン、ロージーの唇に口紅を塗る。

ロージー　「（口紅を塗られている）」

ヒロイン、口紅を塗り終わる。

【①】

ロージー　「ん、できたか？」

ヒロイン「……」

ロージー　「？　どうした？」

ヒロイン「少し濃かったかも……」

ロージー　「え？　濃い？」

ロージー、鏡の方を向く。

ヒロイン「治すから、こっち向いて」

ロージー　「あー……確かに、少し濃いか……？」

【①と⑧の間：⑮と⑯の間を向きながら】

ロージー　「……お前に移してやろうか」

【①：ヒロインの方を向く】

ヒロイン「え？」

ロージー　「この色なら、お前にも似合うと思うし、
お前に移せば、口紅が無駄になることもないだろ？」

ロージー、ヒロインに顔を近づける。

ロージー　「ほら……キス、してくれないのか？」

【①寄り】

ヒロイン「……」

少しの間。

ヒロイン、ロージーの唇に紙を当てる。

※中略

ロージー　「ッ！」

ロージー　「……お前は、今の言葉も……信じてくれないのか……」

ロージー　「ッ！」

ロージー、ヒロインに近寄る。

SE：足音

腕を掴んで壁へ押し付け、強引にキス。

【①　→①寄り】

ロージー　「ッ――！　（ヒロインを掴み、強引にキス）」

ヒロイン、抵抗を見せる。

【①寄り】

ロージー　「（深く強引なキス数秒）」

ロージー、ヒロインを壁に押し付ける。

ロージー　「（一度唇を離し、またすぐに強引なキス数秒）」

ヒロイン、ロージーをなんとか引き剝がし平手打ち。

【①】

ロージー　「（引き剥がされる）っ！　（頬を叩かれる）っぅぁ！」

ロージー、平手打ちの勢いで床に座り込む。

【⑨下】

ロージー　「はぁ……はぁ……っ……はぁ……（乱れた息）」

ヒロイン「ここまでする……？」

ロージー　「え……？」

ヒロイン「こんなことしてまで……
まだ私のこと揶揄い足りない……ッ?!」

ロージー　「ッ！　違う！　揶揄いでこんなことするわけないだろ！
俺は……！　俺は本気で……っ！」

ヒロイン、その場から逃げ出す。

ＳＥ：走る足音

【⑬外側】

ロージー　「ッ！　待ってくれッ！」

ＳＥ：ドアが開く

※中略

ロージー「ん……あぁ、ありがとう……これは……」

ヒロイン「エンジェル・キッス」

ロージー「へぇ、『エンジェル・キッス』……初めて見たな……」

ロージー、カクテルを一口飲む。

ロージー「っ！　甘い……デザートみたいだ」

ロージー、またカクテルを飲む。

ロージー「うん、美味い……（呼吸を一つ）」

ヒロイン「私は、あなたのダンス好きよ」

ロージー「え……？」

ヒロイン、ロージーのダンスを褒める。

ロージー「……そうか……

（小さく笑い）、まるでよく観てるみたいに褒めてくれるんだな」

ヒロイン「えぇ、観てる。いつも、ここから」

ロージー　「え……？」

ロージー、振り返りステージを見る。

【⑨：振り返って】

ロージー　「……そうか……このバーカウンターからは、ステージが良く見えるのか……」

ヒロイン、肯定。

ヒロイン「ステージに立つあなたは綺麗よ。
見惚れちゃうくらいに」

ロージー　「……『綺麗』か……（小さく笑い）」

【⑨：ヒロインの方を向いて】

ロージー　「本当に、俺のダンスが好きなんだな」

ヒロイン「うん、好き（恍惚とした笑み）」

ロージー　「……っ！（見惚れる）　……そうか……
（照れて目線を逸らす）好き、か……」

ロージー　「（小さく笑い）……（ヒロインを見て）ありがとう……」

ロージー、また振り返りステージを見る。

【⑨：振り返って】

ロージー　「いつか、ソロでステージに立って踊りたいんだ」

ヒロイン「素敵ね」

ロージー　「だろ？」

ロージー　「……もし、それが本当に叶ったら……」

【⑨：ヒロインの方を向いて】

ロージー　「その時はまた、このバーカウンターから、俺を観ててくれ」

回想終了。

○『シアター・オープンナイト』・廊下→ロージーの部屋（閉店後・深夜）

ヒロイン、ロージーの部屋へ向かう。

足音（ＦＩ）

ヒロイン、部屋のドアをノックするが返答がない。

ＳＥ：ノック音

もう一度ノックするがまた返答がない。

SE：ノック音

ヒロイン、ゆっくりとドアを開け部屋の中に入る。

SE：ドアの開閉音

ロージー、ソファで眠っている。

【⑨】

ロージー　「（寝息）」

ヒロイン、ゆっくりと近づく。

ソファの空いている場所に座ると、ロージーの頭を撫でる。

ロージー、頭を撫でられ身動ぎをする。（※起きる）

【①下】

ロージー　「（寝息）……（頭を撫でられ身動ぎ）んんっ、んー……（寝息）」

ヒロイン、愛おし気にロージーを呼ぶ。

少し間をおいて立ち上がって去ろうとする。

ロージー、ヒロインの腕を掴み引き止める。

ロージー　「っ（ヒロインの腕を掴む）……そんな声で、俺を呼ぶなよ……」

ロージー、体を起こす。

ロージー　「（体を起こす）」

※中略

ロージー　「そうか……」

ロージー　「……俺は、きっと……あの時からずっと、お前が好きだったんだ」

ヒロイン、驚く。

【①：⑧と⑯の間を向きながら】

ロージー　「あの時、俺のダンスを『好き』だって……
『綺麗』だって言ってくれたお前に救われた」

ロージー　「あのバーカウンターから観てくれてたお前がいたから、
俺はここまで来れたんだ」

ロージー　「お前に……ソロでステージに立つ俺を、観て欲しかった」

ロージー　「……お前は、俺がただお前を揶揄ってると思てたみたいだけど……」

ロージー、ヒロインに向き直る。

【①】

ロージー　「俺は、お前を揶揄ったことなんて一度もない」

ロージー　「俺が今までお前に言ってきたことは、全部、俺の心からの本心だよ」

ロージー　「本気で……お前を口説いてた」

ヒロイン、驚く。

ロージー「お前にしか、あんなこと言わない。キスだって、お前にしかしたことない」

ロージー「俺は……お前が好きだ。愛してる」

少しの間。

ヒロイン「……ごめん」

ヒロイン、俯く。

ロージー「え……？」

ヒロイン「私、ずっと……自惚れちゃいけないと思ってたの……」

ロージー「自惚れちゃ、いけない……？」

ヒロイン「あなたはこの店のＮｏ．１で、私はただのバーテンダー。
釣り合うわけがないって……」
「だから、あなたの邪魔にならないように、
距離を保とうとしてた……」

ロージー「っ！　……っ待て……
釣り合うわけがないから、距離を保とうとしてたって……
それって……（期待したように少し震えて）」

ヒロイン、顔を上げる。
ヒロイン「私も……愛してる」

【①→③寄り】
ロージー　「っ！　（ヒロインを抱きしめる）……！」

【③】
ロージー　「本当に……お前も……俺を、愛してくれてるのか……？」

ヒロイン、頷く。

ロージー　「俺の言葉は……少しは、お前に届いてたのか……？」

ヒロイン「自惚れちゃいけないと思うくらいには」

ロージー　「……そうか……よかった……」

ロージー　「やっと……やっと……振り向いてくれた……」

ロージー　「愛してる……本当に……心から、愛してるよ……」

【①寄り】
ロージー　「（優しくキス一回）」

○『シアター・オープンナイト』・ロージーの部屋（深夜）